

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		7,071	t-CO ₂
① （温を除く 二室除 酸効く 化果 炭ガ 素換 排 算 出 量）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		7,071

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度 令和 6 年度 排出量（実績）		目標年度 令和 9 年度	
			目標排出量	目標削減率
温室効果ガス 総 排 出 量		t-CO ₂	t-CO ₂	%

項 目	基準年度 令和 6 年度 排出量（実績）		目標年度 令和 9 年度	
			目標排出量	目標削減率
原単位当たりの 排 出 量	0.2564	t- CO ₂ / t	0.2487 / t	3.0 %

（2）目標設定の考え方

毎年、燃料等の使用量を削減（省エネ）活動を通じて、温室効果ガスの原価単位を1%ずつ、3年間で3%削減する。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
工場等の製造工程における対策	<ul style="list-style-type: none"> ■ エネルギーの使用の合理化に関する中長期改善計画の実施 	エネルギー消費原単位改善 1%/年
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> ■ 冷房 28℃、暖房 18℃を徹底する ■ フィルターの定期清掃の徹底 ■ 空調機器の更新時に省エネタイプを検討する ■ クールビス・ウォームビスの推奨 	
省エネルギー・省資源の行動の実践・照明	<ul style="list-style-type: none"> ■ 昼休み、時間外の消灯を徹底する ■ 工場照明の分割化、省エネタイプへの更新を推進する ■ 新規照明設備はLED照明の順次展開 	
省エネルギー・省資源の行動の実践・OA機器	<ul style="list-style-type: none"> ■ パソコン、コピー機の省エネモード又は離席、退社時のスイッチ切を徹底 ■ PC待機モードの設定を推進 	

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	%

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

<ul style="list-style-type: none">・分別回収の徹底・夏季省エネ強化活動・スクラップ低減活動・帳票の電子化によるペーパーレス活動

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

<ul style="list-style-type: none">・朝礼での呼びかけ実施・「省エネ」推進ビラの掲示・2S活動日を利用して美化活動を推進すると共に、エアコン等のフィルター清掃もそれに含めて実施
--